愛知県における
エコツーリズムの挑戦

中京大学　近藤ゼミ

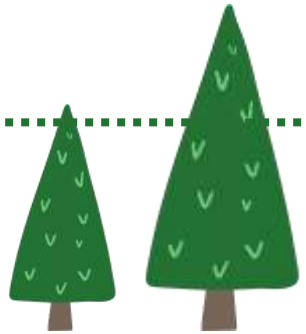
E122296　森　駿太
E122139　坂井優太
E122155　下地陽平
E122301　森山　岳
E122080　加藤恵理
E122320　山鳥瑞帆

00

研究タイトル

「愛知県におけるエコツーリズムの挑戦」

目 次



01 エコツーリズムの定義

02 テーマ選定理由

03 エコツーリズムの歴史

04 先行研究

05 私たちのプラン

06 参考文献

Table of Contents

00 研究するにあたり…

一般社団法人日本エコツーリズム協会
よりご協力していただきました。

日本エコツーリズム協会
Japan Ecotourism Society

- 今回の研究でエコツーリズムの基礎的な考え方を教えていただいた。(zoomでのインタビューについては私たち学生の研究や調査の参考となるよう、エコツーリズムの考え方を伝えてることが趣旨より遠慮してほしいとのこと)

- 会員向けの資料を提供していただき、発表の使用許可をいただいた。

- パワーポイントの内容について指導・添削をしていただいた。

01　エコツーリズムの定義

01

01 エコツーリズムの定義

環境省によると…

*「自然環境や歴史文化を対象とし、それらを**体験**し、**学ぶ**とともに、対象となる地域の自然環境や歴史文化の**保全**に責任を持つ観光のありかた」*

日本エコツーリズム協会によると…

*1. 自然・歴史・文化など**地域固有の資源**を生かした観光を成立させること。*

*2. 観光によってそれらの資源が損なわれることがないよう、適切な管理に基づく**保護・保全**をはかること。*

*3. 地域資源の健全な存続による地域経済への波及効果が実現することをねらいとする、**資源の保護＋観光業の成立＋地域振興の融合**をめざす観光の考え方である。それにより、旅行者に魅力的な地域資*

01

エコツーリズムの定義

自然・歴史・文化など地域固有の資源を活かすこと

観光によってそれらの資源が損なわれることがないよう、適切な管理に基づく保護

地域資源の健全な存続による地域経済への波及効果が実現すること

エコツーリズムは“考え方”で、目的ではなく、“課題解決の手段”である

エコツアーとは？

日本エコツーリズム協会によると…

「エコツアーとは、エコツーリズムの考え方に基づいて実践されるツアーの一形態である」

↓

エコツアー ∈ エコツーリズム である

https://www.tabirai.net/activity/okinawa/special/ecotour/img/ecotour_03.jpgより

グリーンツーリズムとは？

農林水産省によると…

緑豊かな農村地域において、その自然、文化、人々 との交流を楽しむ、

滞在型の余暇活動のこと

⇓

エコツーリズムとの違いは…

グリーンツーリズムは 農村地域 を対象としている

エコツーリズムは 自然環境や歴史文化 を対象にしている

https://www.maff.go.jp/j/pr/aff/1407/spe1_01.htmlよ

アグリーツーリズムとは？

Spaceship　Earth**のサイトによると**…

⇒旅行者が農場や農村に足を運び、休暇・余暇を過ごす観光形態

⇓

グリーンツーリズム≒アグリーツーリズム

よってエコツーリズムとの違いはグリーンツーリズムとの違と同様である。

https://spaceshipearth.jp/agri_tourism/　より

まとめ

エコツーリズムとは、地域固有の**自然・歴史・文化資源**を保護・保全しながら、それらを生かした観光を通**地域経済**の振興を図ることで、魅力的な地域資源との永続的なふれあいの機会を提供し、地域の暮らしの安**資源の保護**を目的とする観光の考え方である。

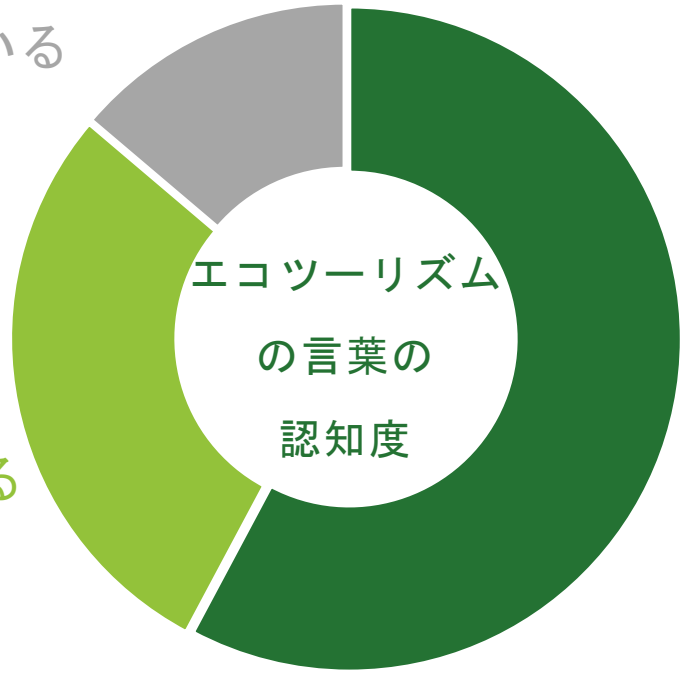
02

02　テーマを選んだ理由

02

テーマを選んだ理由①

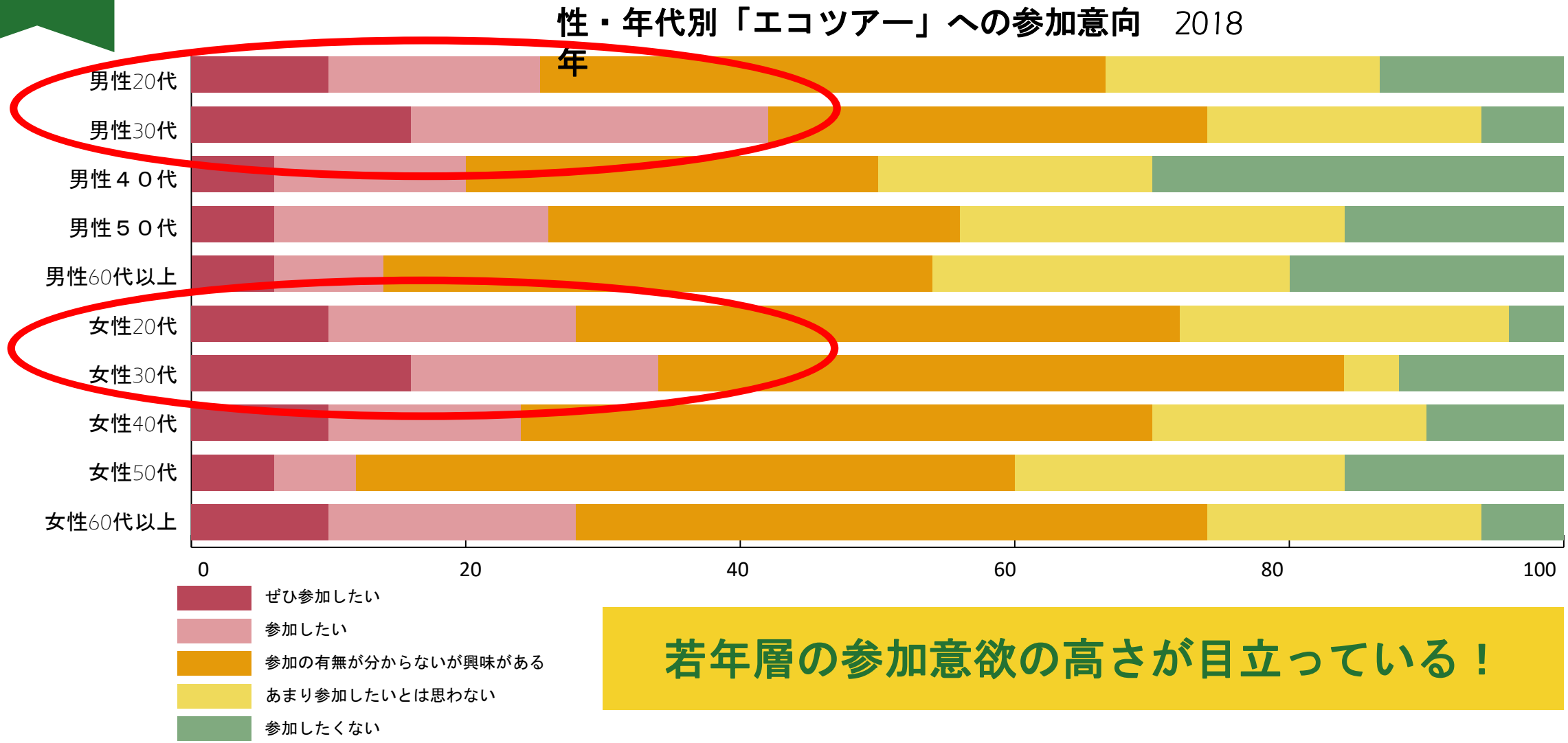
資料：「環境問題に関する世論調査」、平成26年のデータより作成



日本のエコツーリズムの認知度が低い！

02 テーマを選んだ理由①

出典：日本エコツーリズム協会会報誌



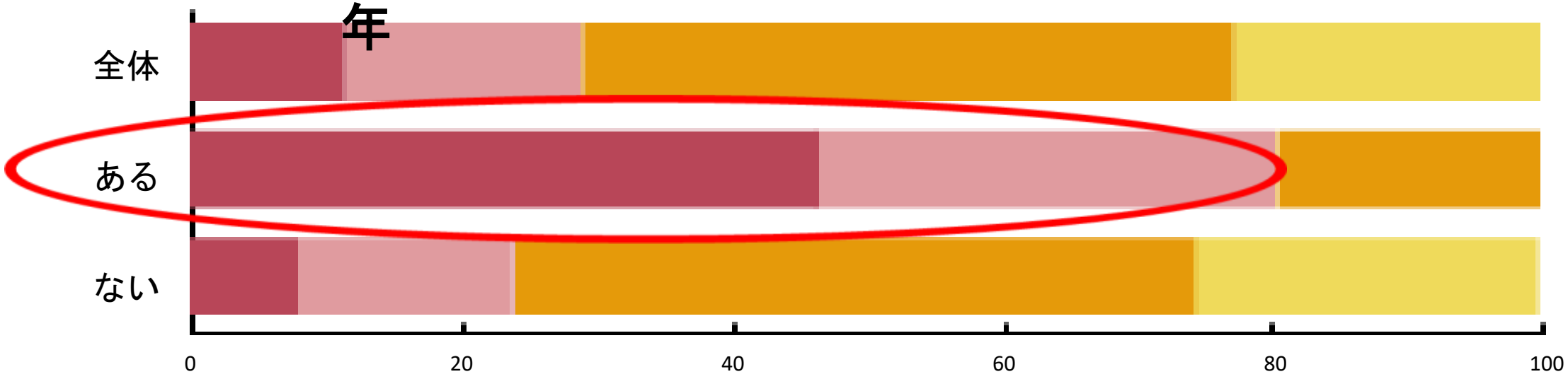
若年層の参加意欲の高さが目立っている！

02

テーマを選んだ理由①

出典:日本エコツーリズム協会会報誌

「エコツアー」の参加経験別 参加意向　2018年



- ぜひ参加したい
- 参加したい
- 参加の有無が分からないが興味がある
- 参加したくない

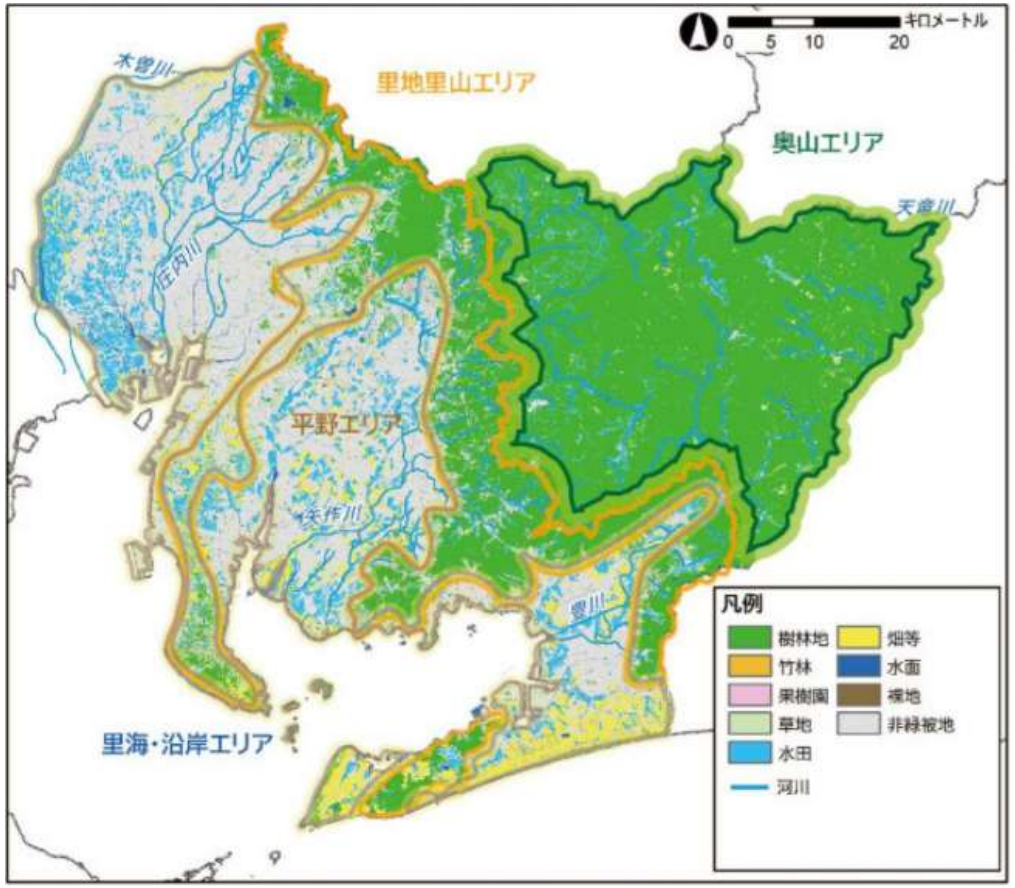
エコツーリズム参加経験者はリピート意識が高い！

02

テーマを選んだ理由②

自然環境の利用の促進

愛知県は自然環境が豊富であり、それを活用して持続可能な観光を推進できる



https://www.pref.aichi.jp/soshiki/shizen/landscape.html より

02

テーマを選んだ理由②

愛知県は自然豊富

- 愛知県は全国4位の植物種数
- 県土の約40%を森林が占めている
- ラムサール条約に登録された2つの干潟がある

この研究の意義

愛知県のエコツーリズムを取り組んでいる地域について調べ

愛知県の自然や環境の良さを広めたい

地域の自然や歴史文化の体験を通して、

環境保全

や文化保全に対する理解を深める

学生ならではの視点で自分たちでプランを立てて

エコツーリズムについて広めたい

03

03　エコツーリズムの歴史

海津ゆりえ（文教大学国際学部教授、NPO 法人日本エコツーリズム協会理事）

エコツーリズムの変遷

「もう一つの観光」を求めて 20th

エコツーリズムはいつどこで生まれた？

エコツーリズムはいつ、どのようにして生まれたのか、実は明確な年年月日や定義はありません。1960年代半ばから1980年代にかけての環境保護と観光をとりまく社会的環境の中で生まれ、時代の流れに揉まれながら概念が熟成されたものといえます。

マス・ツーリズムによる破壊や改変を受けて

1960年代は、第二次世界大戦後の復興の中で先進国が著しい発展を遂げた時期です。先進国から旧植民地や自然地域への人々の旅は、観光業を巨大な多国籍間産業に育て、観光の大衆化（マス・ツーリズム）を生みました。自然資源や伝統文化は、観光によって時に保たれ、時に破壊や改変を受けてきました。後者が著しくなったとき、社会学者や文化人類学者、生態学者らが声をあげ、観光に倫理意識と規範を求め、観光業界でもその動きが高まっていったのです。オルタナティブ、リスポンシブル、エシカル、エコロジカルなどの姿勢が求められるようになりました。

持続可能な発展における観光の役割として

1972年にストックホルムで初の環境会議を開催した国連は、1987年に持続可能な発展（Sustainable Development）というキーワードを発表し、1992年にリオデジャネイロ会議を開催、その実現における観光の役割を認めて2002年を「国際エコツーリズム年」とし、2004年には持続可能な観光（Sustainable Development）の原則を発表しました。

アフリカや中南米での発展

海外の代表例であるシンガポールやケニアなどでは、ハンティングに代わる環境教育型のガイドツアー、集落で観光客を受け入れるコミュニティ・ベースド・ツーリズムなどが編み出されました。また、コスタリカやガラパゴスではトレーニングを受けた認定ガイドによる自然解説を伴うツアーが普及しました。中南米諸国では国立公園法そのものに利用のゾーニングやガイドの役割、観光客の管理手法などを組み込んで、国が自然を活用した観光産業の枠組みを明確にしています。

日本では地域活性化に貢献する観光として浸透

日本にエコツーリズムが導入されたのは、1990年前後のことです。海外からほぼ10年遅れて1970～1980年代にマス・ツーリズムの時代を迎えた日本でしたが、バブル経済が崩壊した1990年を前に、開発型から地域主導型へと観光のシフトが起きていました。課題克服を目的とした海外とは異なり、地域の自然や文化などの魅力（地域の宝）を守り伝え、地域活性化に貢献する観光としてエコツーリズムは解釈され、各地域に浸透していったのです。

初期の事例：小笠原、西表島、屋久島

初期の主な事例は小笠原、西表島、屋久島の3地域です。小笠原は1989年にホエールウォッチングを事業化するにあたってハワイに学び、ルールづくり、ガイドの育成、島民の遊漁船の活用、研究者による鯨類調査などエコツーリズムを推進するための体制を整えました。西表島では環境庁（当時）が国立公園におけるエコツーリズムの実践例を構築するために、1991年度に資源調査を実施し、エコツーリズム協会の設立を支援し、地域ぐるみで進めるモデルを提示しました。屋久島は奈良とも世界自然遺産登録と同年の1993年に、3人の若者たちが会社を立ち上げ、エコツアーガイドがビジネスとなることを示しました。これらについては本紙の6～9ページに掲載されたとおりです。

里山や里海への導入と「日本型エコツーリズム」

日本では国がエコツーリズム推進の旗振り役となり、2000年代に入ると環境省がモデル事業によって地域支援を開始し、里山や里海へとエコツーリズムを導入する地域は広がっていきました。2007年には超党派の議員立法で世界唯一の「エコツーリズム推進法」を成立させました。これらの変遷を経て、わが国では「日本型エコツーリズム推進法」と呼びうる概念を作り上げてきました。

自然環境vs人間という二項対立で自然を捉えてこなかった日本では、自然の恵みに包まれるように人の暮らしがあり、文化があると根づいて活きています。それらをガイドが伝えることで魅力が共有され、継承されていきます。この考え方は日本のみならず、世界共通のアプローチと言えるでしょう。

多様な環境や主体、担い手との連携によってうわべの景観保存ではない持続可能な発展を実現することが、これからのJES の使命です。

1980

1972 国連人間環境会議の開催（ストックホルム）
1980 IUCN、UNEP、WWFが「世界環境保全戦略」発表
1981 経済学者D.P.スレッシャーが論文「ライオンの経済」発表。狩猟を伴わない観光を推進する根拠となる（バリ島）
1982 IUCN第3回世界国立公園会議で自然公園地域の自然資源金調達手段としてエコツーリズムが提唱される
1985 WTOとUNEPが「観光と環境に関する共同宣言」に署名
1987 WCEDが『われら共通の未来』を発行・「持続可能な開発」が明記される
1989 小笠原ホエールウォッチング協会発足（小笠原村）

1990

1990 エコツーリズム協会（現国際エコツーリズム協会）設立
1991 環境庁（当時）、西表国立公園を対象にエコツーリズム推進方策検討調査を実施
1992 国連環境開発会議（地球サミット）開催、持続可能な開発がテーマ（リオデジャネイロ）
日本環境教育フォーラム『エコツーリズム分科会』発足
1993 屋久島、白神山地が世界自然遺産に登録される。同年、日本初のエコツアーガイド会社、屋久島野外活動総合センター設立
1994 日本自然保護協会、『エコツーリズムガイドライン』発行
1996 西表島エコツーリズム協会設立
1998 日本旅行業協会（JATA）『JATAエコツーリズムハンドブック』発行
エコツーリズム推進部会（現NPO法人日本エコツーリズム協会）設立
1999 エコツーリズム推進協議会『エコツーリズムの世紀へ』発行
WTOが世界観光倫理規定を発表

2000

2000 自然体験活動推進協議会（CONE）設立
2002 国連が2002年を国際エコツーリズム年に制定。WTO、UNEP共催による世界エコツーリズムサミット開催（ケベック市、カナダ）
北海道アウトドアガイド資格制度開始

2010

2003 環境省「エコツーリズム推進会議」開催
日本エコツーリズム協会（JES）NPO法人化
JES・学生部会発足
2004 環境省・全国13地域でエコツーリズム推進モデル事業開始
2005 第1回エコツーリズム大賞開始（毎年）
2007 「観光立国推進基本法」施行、環境省・国交省・農水省・文科省の共管
2008 JES設立10周年記念大会開催
屋久島認定ガイド制度開始
2009 エコツーリズム認定自治体第1号に埼玉県飯能市が指定される
JES・第1回全国エコツーリズム学生シンポジウム開催（毎年）
2011 小笠原諸島ガイド登録制度開始
知床国立公園制度開始
2012 WTTCグローバルサミット日本で初の開催、「明日へのツーリズム賞2012」へJES協力
JES・第一種旅行業登録
2013 厳冬期の知床五湖エコツアー開始
2014 国連で「持続可能な開発目標」（Sustainable Development Goals：SDGs）採択
2015 屋久島公認ガイド開始
2017 大台ケ原登録ガイド制度開始
奄美群島エコツアーガイド認定制度開始
2018 一般社団法人日本エコツーリズム協会設立

エコツーリズム推進法成立記念特別号（2007）
兼高かおる 現代会長が永眠
観光と環境の共生という難しい課題に全面的に賛意を示し、沖縄の創立総会で「自然先、人間はその次」と言い切った海外旅行のフロントランナーであり旅行ジャーナリストである兼高かおるさんが2019年1月5日永眠した。エコツーリズム推進法成立記念特集号（2007年）では、二代目会長愛知和男さんにその思いが引き継がれた。感謝そして合掌。

出典：日本エコツーリズム協会会報誌

03

エコツーリズムの歴史

年代	内容
1991	エコツーリズム等の観光利用推進方策検討調査を実施
	エコツーリズムに関する調査を開始(in沖縄)
1990後半	日本エコツーリズム推進協議会などの民間推進団体の設立が相次ぐ
	エコツーリズムの普及に向けた動きが加速
2003〜2004	エコツーリズム推進会議を設置
	国としてエコツーリズムの推進がスタート
2008	エコツーリズム推進法を施行

03

エコツーリズムの歴史

屋久島が日本で最初にエコツーリズムが行われた

日本で最初にエコツーリズムが行われたのは屋久島

島

1990年頃から屋久島などの自然豊かな観光地でエコツアーを実施する民間事業者が多数

https://yakushima-kuchinoerabu-br.com/activities/kounin-guide/ より

03 エコツーリズムの歴史

環境省による
エコツーリズムの取り組み状況

04　先行研究について

04

三重県名張市の事例

題名：　「三重県名張市におけるエコツーリズムの課題と可能性」

著者：　保坂真・河本大地（奈良教育大学）

発表媒体：　奈良教育大学紀要　第70巻　第1号（人文・社会）

発表年度：　令和3年

https://researchmap.jp/daichi/published_papers/34281531

先行研究の概要

名張市の取り組み

- エコツーリズム推進協議会設立
- 「目指す地域の姿」を掲げる
- 「幽玄の竹あかり」

名張市の市章

https://www.city.nabari.lg.jp/s010/110/060/1030/201502050445.html より

04 先行研究について

先行研究の概要

研究結果

- 地域住民の認識低下
- 観光客との関わりが少ない
- 多様な主体の連携必要

今後の展望

- 効果的な情報発信
- 環境教育の実施
- 地域住民への普及啓発活動強化

課題

- 地域住民の参加・理解不足
- 自然観光資源の活用不十分
- 他地域での展開必要

マレーシアの事例

題名：　「マレーシア森林研究所における取り組みを事例に」

著者：　沼田真也・野田江里・木下万里・生亀正照・川原晋

発表媒体：　観光科学研究　第3号

発表年度：　2010年3月

https://4travel.jp/os_shisetsu/10382325　より

参考文献：https://tokyo-metro-u.repo.nii.ac.jp/records/3501

先行研究の概要

マレーシアの取り組み

- 1996年「国家エコツーリズム」計画発表
- 生物多様性の保護区と保護地域の管理や生物多様性の保全に関する啓発活動
- 国立公園の管理を通して、持続可能なエコツーリズム開発のための計画や実践

Ex)都市公園と州立公園のエコツーリズム、インタープリテーション　など

マレーシア森林研究所（FRIM）における取り組み

- 低負荷なレクリエーション・アトラクションを活用して環境教育を提供するためのインフラ整備を進め、エコツーリズムの推進政策の下で教育アトラクションの提供

- ネイチャートレイルの開発、新しいキャノピーウォークウェイの開発、民族植物学などをテーマとしたガーデンの整備を行っている

FRIMにおける代表的なアトラクション1

https://ameblo.jp/laten-amerika/entry-12194221669.html より

キャノピーウォークウェイ

- 高い木の間を吊り橋でつないだもの
- 1992年に完成し全長で200mほどの長さがあり、マレーシアで一番古い地上30mの高さから、熱帯雨林の高い木々でしか見られない、生物の営みを間近で眺めることができる

※オーバーユースを避けるため、月曜日と金曜日は施設が閉鎖され、解放日でも1日の利用人数は250名と制限されているため、利用においては事前予約が必要

FRIMにおける代表的なアトラクション2

ネイチャー・トレイル

⇒自然散策路のこと

- クラウン・シャイネスと呼ばれ、同例の樹木が競争しながら成長することで形成された樹幹のモザイク模様や、サルやツパイなどの哺乳類の観察が可能
- 観光客の利用の他にも子供向けの教育場にもなる

https://www.pandabus.com/malaysia/-tr-KUL_FRIMPP より

課題点

- 現時点ではアトラクションとして成功してると言えるが、自然資源を持続的に利用するために、オーバーユースを避けるための取り組みや質の高いガイド育成とその活用システムが必要

- 移入種をどのように制御、管理していくか利用者数の把握や植生調査等のモニタリングを継続的に行っていく必要がある

04 先行研究について

良いところ

- 名張市の地理的特性や自然資源を踏まえた分析
- 独自のエコツーリズムの考えに則ったルールが定められている

悪いところ

- 課題が挙げられているがそれに対して解決案が曖昧
- 既存の先行研究は愛知県以外のものばかり

愛知県では先行研究がない

独自性

- 学生ならではの視点
- 具体的なプランの提示
- **地元の愛知県で行う**

05　私たちのプラン

05

私たちが考えたエコツーリズムのプラン

７：４５	名鉄名古屋駅集合
７：５９	特急 河和行（一部特別車）に乗る
８：４０	名鉄 河和口駅到着
９：００	オレンジロード（河和口側）でハイキングスタート
９：００～１１：３０	オレンジロードでハイキング
11:40	ジョイフルファーム鵜の池到着　そこでさつまいも掘り＆BBQ
１３：５５	ジョイフルファーム鵜の池出発 徒歩で富貴駅に向かう

私たちが考えたエコツーリズムのプラン

１４：24	富貴駅で急行新鵜沼行に乗る
15:05	南加木屋駅到着 徒歩で加木屋緑地に向かう
15:20	加木屋緑地到着
15:20～１７：２０	加木屋緑地で活動
１７：２０	加木屋緑地出発 徒歩で南加木屋駅に向かう
１７：３５	南加木屋駅到着 急行新鵜沼行に乗る
１７：５８	名鉄名古屋駅到着 解散

名鉄名古屋駅に集合

７：４５　名古屋駅に集合する

７：４９　一部特別車特急河和行に乗る

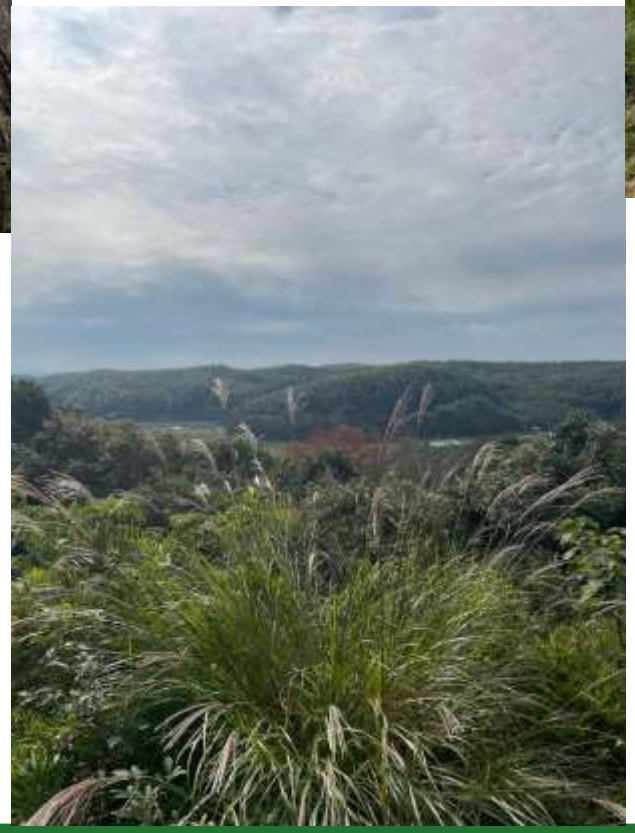
８：４０　河和口駅に着く

オレンジラインでハイキングスタート

９：００　オレンジラインでハイキングスタート

１１:３０　オレンジライン途中のジョイフルファーム
鵜の池に到着

オレンジラインの様子①



オレンジラインの様子②

ジョイフルファーム鵜の池に到着

１１:３０　オレンジライン途中のジョイフルファーム
鵜の池に到着
→さつまいも掘り体験＆BBQ

１３：５５　ジョイフルファーム鵜の池を出発
徒歩で富貴駅に向かう

さつまいも掘り体験の様子

地元の野菜などを使ったBBQの様子

加木屋緑地に向けて出発

１４：２４　富貴駅で急行新鵜沼行に乗る

１５：０５　南加木屋駅に到着、徒歩で加木屋緑地に向かう

１５：２０　加木屋緑地到着

加木屋緑地
成長の森ゾーン
みはらしの森ゾーン
加木屋緑地とは
加木屋緑地の目的
高地子山とは
散策の森ゾーン
水辺の森ゾーン

林と生き物の関わり
光合成
呼吸
フンや死体

森に生きる野鳥と蝶
野鳥と樹木
蝶と樹木

加木屋緑地の様子①

加木屋緑地の様子②

名古屋に帰る！

１７：２０　加木屋緑地を出発、徒歩で南加木屋駅に向かう

１７：３５　南加木屋駅に到着、急行新鵜沼行に乗る

１７：５８　名鉄名古屋駅に到着、解散

https://www.meitetsu.co.jp/library/rolling_stock/detail_exp/3300.html　より

０６　参考文献

06

07

参考文献

一般社団法人日本エコツーリズム協会：

https://ecotourism.gr.jp/

環境省ホームページ：

https://www.env.go.jp/nature/ecotourism/try-ecotourism/about/

Spaceship　Earthのサイト ：

https://spaceshipearth.jp/

資料：「環境問題に関する世論調査」：

https://survey.gov-online.go.jp/h26/h26-kankyou/2-2.html

エコツーリズムの歴史について：

https://www.env.go.jp/nature/ecotourism/try-ecotourism/about/history.html

先行研究①：

https://researchmap.jp/daichi/published_papers/34281531

先行研究②：

https://tokyo-metro-u.repo.nii.ac.jp/records/3501

パワーポイントのテンプレート：

https://www.canva.com/

アクセス日（閲覧日）：すべて２０２４年１１月２１日

THANK YOU!
ありがとうございました！